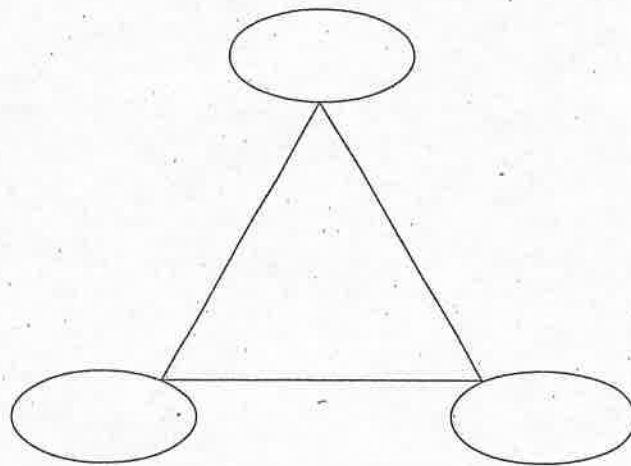


平成28年度
家庭教育懇談会

実施結果報告書
(抜粋)



足利市教育委員会

平成28年度 家庭教育懇談会

〔足利の子 みんなで育てる懇談会〕

実施一覧（5地区5回）

地区名	期 日	会 場	参加者数	備 考
筑波地区	6月24日（金）	筑波公民館	56人	3分科会
三重地区	7月28日（木）	三重公民館	81人	4分科会
矢場川地区	9月16日（金）	矢場川公民館	73人	3分科会
葉鹿地区	10月13日（木）	葉鹿公民館	87人	3分科会
毛野地区	10月27日（木）	毛野公民館	70人	2分科会
合 計			367人	

地区名	テ ー マ
筑波地区	今 私たちにできること ～子育てに なすべきことは何かを考える～
三重地区	三重の子を みんなで育てる懇談会
矢場川地区	家庭では 地域では 学校では ～話し合おう 子どもの今と未来のために
葉鹿地区	今 子どもについて悩んでいること
毛野地区	みんなで育てる思いやりの心

課題

家庭や地域で取り組むべきこと

地域の交流が少ない

⇒自治会・青成会・老人会 一体となって 交流を深める

家庭や地域で心がけること

⇒近所の大人・子供の顔を全員覚える
例えば 町内の防災訓練への参加

1班

子ども (HA)

*あいつができた子もいる

→くり返し声と掛ける 家庭でし

*子どもは褒めて伸ばす!

2班

世代間交流 (高齢者 祖父母 父母 子供)

経験 体験 (20年までにいろいろ達成感)

道徳心 (心)

教育 (かわり合い)

11/13

野原 ← 集中して宿題
地域 交流が少ない
経験
声かけの大事
受け答え
祖父母との関係が壊れた
祖父母との関係が壊れた
祖父母との関係が壊れた

子育ての悩み

スマート
ルーター
接続
保存性がある
トラブル増加

みんなが持っているから
交通関係が見えない

地域
青成会
文庫

親同士の繋がりが少ない (ママ)

近所との関わりが少ない

H28 家庭教育懇談会アンケート集計

筑波・三重・矢場川・葉鹿・毛野 地区

依頼数 306

回答数 279

回答率 91.2%

1 参加者の年代・性別について

	男	女	不明	合計		
20歳代	4	11	0	15	5%	134
30歳代	13	29	0	42	15%	145
40歳代	37	60	0	97	35%	
50歳代	33	24	0	57	20%	
60歳以上	47	21	0	68	24%	
合計	134	145	0	279	100%	
	48%	52%				

2 懇談会の内容について

(1) 懇談会の趣旨や話し合いの内容は理解できたか

	20歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計	
よく理解できた	0	10	23	68	46	41	188	67%
理解できた	0	5	19	28	11	26	89	32%
あまり理解できなかった	0	0	0	1	0	1	2	1%
理解できなかった	0	0	0	0	0	0	0	0%
不明	0	0	0	0	0	0	0	0%
合計	0	15	42	97	57	68	279	100%

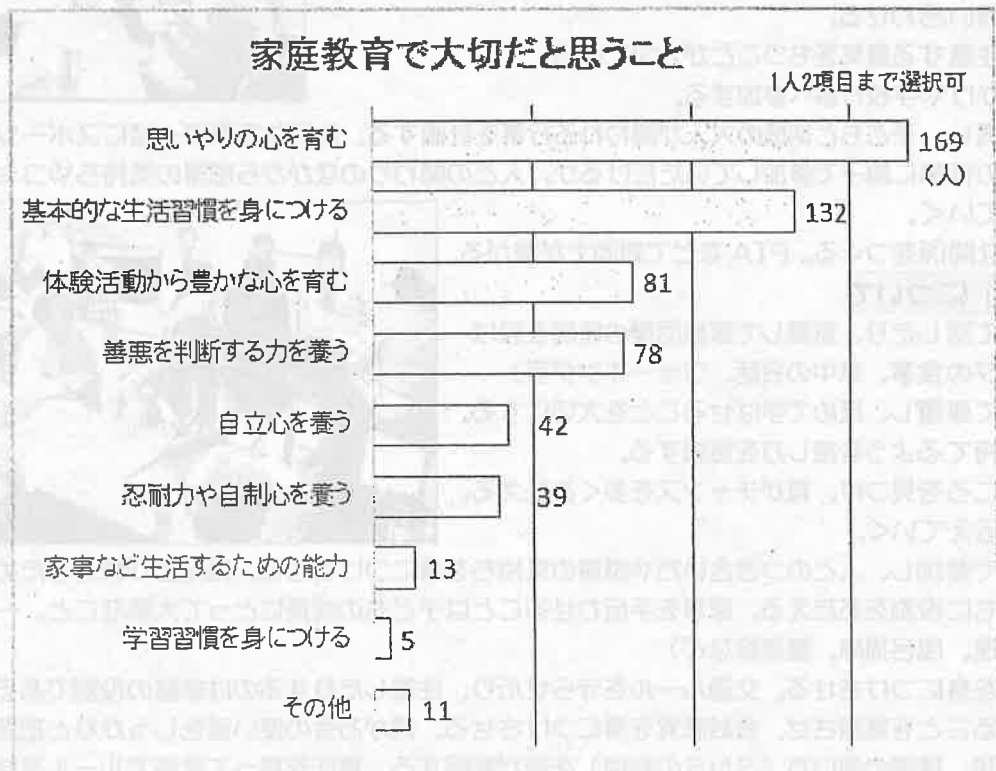
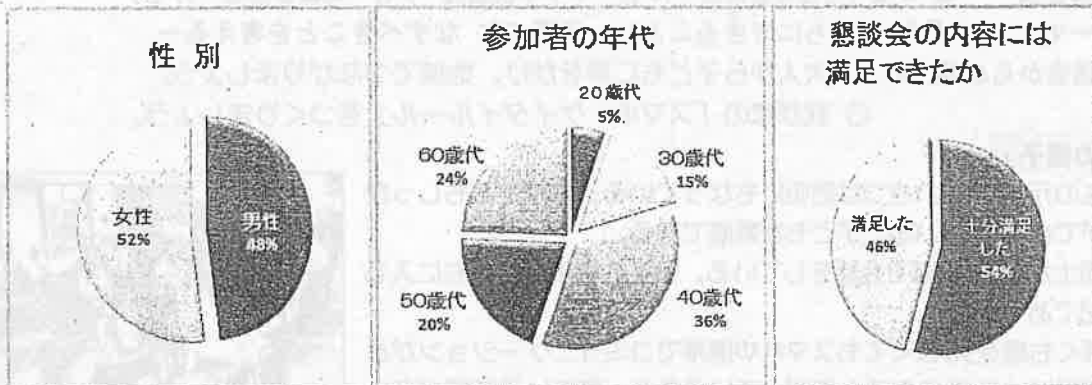
(2) 懇談会の内容には、満足できたか。

	20歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計	
十分満足した	0	10	22	61	31	27	151	54%
満足した	0	5	20	35	26	41	127	46%
あまり参考にならなかった	0	0	0	1	0	0	1	0%
実施する必要はない	0	0	0	0	0	0	0	0%
不明	0	0	0	0	0	0	0	0%
合計	0	15	42	97	57	68	279	100%

(3) 懇談会に参加して、今後心がけたいことや、取り組んでいきたいことがあったか。

	20歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計	
あった	0	15	42	96	57	63	273	98%
ない	0	0	0	0	0	0	0	0%
不明	0	0	0	1	0	5	6	2%
合計	0	15	42	97	57	68	279	100%

(回答数 279名)



「筑波の子を みんなで育てる懇談会」実施結果

- 1 実施日時 平成28年6月24日(金) 午後7時～9時
- 2 会場 筑波公民館
- 3 参加者数 56名(市教育委員会:10名 小中学校職員:9名 地区参加者:37名)
- 4 テーマ 「今 私たちにできること」～子育てに なすべきことを考える～
- 5 懇談会からの提案 ○ 大人から子どもに声をかけ、地域でつながりましょう。
○ 我が家の「スマホ・ケイタイルール」をつくりましょう。

「子どもの様子」

- ・小中学生の元気なあいさつは防犯にもなっている。高校生でもしっかり挨拶ができる子もいる。子どもが素直である。
- ・子ども同士がゲーム機で会話をしている。多くの情報が子どもに入るため心配である。
- ・良くも悪くも顔を見なくてもスマホや携帯でコミュニケーションがとれる。部屋にいながら友達と繋がっているため、家にいる時間が多い。



「家庭・地域・大人の様子」

- ・外で子どもに会ったときは声をかけたりコミュニケーションをとったりするようにしている。
- ・子育てが終わると地域とのふれあいがなくなってしまう。
- ・防犯ブザーの音を聞いて出てきてくれる人がいる。
- ・自分の子どもと同世代の子の親と関わる人が多い。育成会、町内の保護者との関わりで親が繋がっている。
- ・どこまでが家庭の「しつけ」なのかという認識に差がある。
- ・親同士の信頼関係があればよその子に言えるが、知らない子にはあまり言えないのが現状である。



「地域のあり方」について

- ・子どもの数が少ないからこそ、地域全体で育てることを再確認する。
- ・登下校時の見守りや通学路の声かけ、大人からの積極的な挨拶等で関わりをもち、心を通い合わせる。
- ・地域の子どものに注意する勇気をもつことが大切である。
- ・近所の子への声かけや学校行事へ参加する。
- ・地域と家庭が連携し、子どもと地域の大人が関われる行事を計画する。地区体育祭で一緒にスポーツをする。
- ・どうすれば地区の行事に親子で参加していただけるか。人との関わりの中から感謝の気持ちやコミュニケーション力を育てていく。
- ・親同士の前向きな関係をつくる。PTAなどで親同士が繋がる。



「家庭のあり方」について

- ・子どもの顔を見て話したり、意識して家族団楽の時間を設けたりする。(朝夕の食事、車中の会話、ウォーキング等)
- ・一人の人間として尊重し、ほめて学ばせることを大切にする。子どもが自信を持てるような接し方を意識する。
- ・子どものよいところを見つけ、親がチャンスを多くあたえる。
- ・祖父母の知恵を伝えていく。
- ・地域行事に親子で参加し、人とのつき合い方や感謝の気持ちを身につけさせる。親同士が繋がるためにも。
- ・家庭の中で子どもに役割をあたえる。家事を手伝わせることは子どもの成長にとって大事なこと。一緒に行いふれ合う。(料理、風呂掃除、墓掃除など)
- ・自転車のマナーを身につけさせる。交通ルールを守らせたり、注意したりするのは家庭の役割である。
- ・働いたお金であることを意識させ、金銭感覚を身につけさせる。親がお金の使い道をしっかりと把握する。
- ・ゲームの利用時間、携帯の使い方(SNSの利用)を親が制限する。責任を持って家庭でルールを決める。
- ・子どもの友達に対して悪いことをしたら注意する勇気をもつ。「いじめ」についてしっかりと話をする。



【全体会】

〈話題提供〉「原点となった親からの語りかけ」

足利市長 和泉 聡

私には、親からの影響を受けた語りかけが三つあります。

- ①『世界を股に掛けて動き回るような仕事についたらカッコいいよね』
 - ・「カッコよさ」→見かけではなく、生き様。
 - ・「見える学力」(偏差値等)の土台に「見えない学力」がたくさんあり、家庭で築かれるものが多い。生活習慣や親からの語りかけの重要性。
- ②『借りたお金は1円でも覚えておきなさい、貸した金は100円でも忘れなさい』
 - ・「受けた恩はちょっとしたことでも忘れるな、してあげたことは忘れてもいい」ということ。
- ③「親にいろいろしてもらったと思うなら、その分を子どもにしてあげなさい」
 - ・「利他の精神」あらゆる場面で。会社で、先輩が後輩を育てる。
家庭で、親が子どもを育てる。
学校で、先生が子どもを育てる。

教育長 若井 祐平

「七つの子」の歌を知っていますか。「からす なぜ泣くの からすは山に かわいい七つの子がいるからよ」です。この七つというのは、からすの子が七ついるということでしょうか、それとも七つになるからすの子がいるということでしょうか。数なのか年なのかということですが、一般的にからすは七つも卵を生まず、七才になるからすが巣の中にもいないでしょう。私はこの歌を聞くと夕暮れ時に親子が楽しそうに家路に向かって歩いている光景を思い浮かべます。西の空を見ると真っ赤な夕日、からすがかあかあと鳴きながら巣に戻っていきます。そのとき七つになる男の子が「からすはなぜ鳴くの?」と聞くと、母親が「七つになるあなたのようにかわいい子が待っているから、今巣に帰るところなんだよ」と説明している、そんな光景が浮かんできます。あわただしく忙しい毎日ですが、ちょっとした短い時間でも親子の団欒の時間は大切であると思います。

【アンケートから】

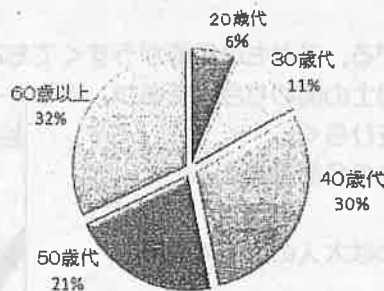


〈感想〉

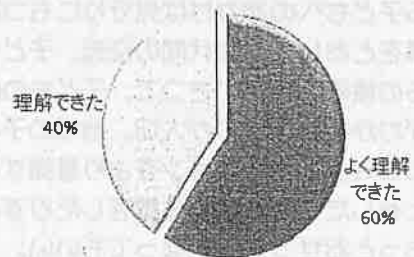
- ・同じ地域の様々な年代や立場の方のお話を聞くことができ有意義であった。
- ・学校、家庭、地域の役割について確認ができた。
- ・地域での自分の役割をよく考え、積極的に子どもに関わっていくことが必要であると感じた。
- ・今回だされた課題を地域で共有できるとよい。
- ・子どもに自己肯定感をもたせるために、家庭や地域でできることを考えていきたい。
- ・世の中には損得だけでははかれないものがたくさんあり、どのように子どもたちに伝えたらよいかを考えさせられた。
- ・親や地域の大人への啓発のためにもこのような機会をまた設けてほしい。楽しい時間であった。
- ・より多くの方たちに参加してもらえるとよい。
- ・地域の方のあたたかい思いを学校の子どもたちに伝えられるようにしたい。

以上

参加者の年代



懇談会の趣旨・話し合いの内容は理解できたか



家庭教育で大切だと思うこと

(人)

1人2項目まで選択可



「三重の子を みんなで育てる懇談会」実施結果

1. 実施日時 平成28年7月28日(木) 午後7時～9時
2. 会場 三重公民館
3. 参加者数 81名(市教育委員会:12名 小中学校職員:12名 地区参加者:57名)
4. テーマ 「三重の子を みんなで育てる懇談会」
5. 懇談会からの提案 ○ 大人から子どもに声をかけ、地域で子どもを育てましょう。
○ 学校・地域・家庭のつながりを大切にしましょう。

「子どもの様子」

- ・ゲーム遊びが中心で、外遊びが減っている。
- ・言葉遣いは、友達、親、ゲームなどからの影響が大きい。
- ・相手を受け入れたり、我慢したりするのが苦手な子が増えている。
- ・顔を見なくてもスマホや携帯でコミュニケーションがとれ、部屋にいながら友達とつながっている。
- ・小学生は祭りなどの行事で交流がもてている。
- ・旗当番では子どもがよく挨拶をしている。



「家庭・地域・大人の様子」

- ・核家族が増え、親が忙しく仕事が優先になっている。
- ・自分の子どもと同世代の子の親と関わる機会が多い。育成会、町内の保護者との関わりで親がつながっている。
- ・主に小1を中心に見守り活動を実施している。ベストを着ての下校指導をありがたく思っている。
- ・共働きなので祖父母の力を借りている。
- ・どこまでが家庭の「しつけ」なのかという認識に差がある。
- ・子育てが終わると地域とのふれあいがなくなってしまう。
- ・中学の部活では、先生方や他の保護者が声かけなど気にかけてくれ、皆さんに育てられていると感じる。



「地域のあり方」について

- ・大人から子どもへの声かけは見守りにもつながる。子どもの反応がうすくてもあきらめないで継続する。
- ・地域行事をとおしての世代間の交流、子ども同士の関わり合いをもつ。
- ・大人からの積極的なあいさつで、子どもの心をひらく。
- ・顔と顔がわかるつながりが大切。地域の子どもの名前を覚える。
- ・親同士のコミュニケーションをより意識する。
- ・悪いことをしたら叱ったり注意をしたりするのは大人の責任である。
- ・地域がもっとおせっかいになってもいい。



「家庭のあり方」について

- ・祖父母からの教育も大切にする。
- ・子どもにいろいろな経験をさせ、達成感をもたせる。
- ・家事等の役割をあたえることで、責任を感じさせたり、手際よくできたりする子を育てる。
- ・あいさつの大切さについてしっかり伝える。
- ・地域行事に親子で参加する。
- ・家族の会話が大切。端末機等を部屋に持っていかせない。
- ・しつけは、共有、共感することが大切。家庭と学校で協力する。
- ・子どものよい行いをきちんと褒める。感謝の気持ちをもたせる。
- ・子どもの話したい気持ちに親が気づく。忙しい中でもしっかり目を見て話を聞く。
- ・子どもの行動をしっかり把握する
- ・親の行動を子どもがよく見ていることを意識する。



〔全体会〕

〈話題提供〉「原点となった親からの語りかけ」

足利市長 和泉 聡

私には、親からの影響を受けた語りかけが三つあります。

- ①『世界を股に掛けて動き回るような仕事につけたらカッコいいよね』
 - ・「カッコよさ」→見かけではなく、生き様。
 - ・「見える学力」(偏差値等)の土台に「見えない学力」がたくさんあり、家庭で築かれるものが多い。生活習慣や親からの語りかけの重要性。
- ②『借りたお金は1円でも覚えておきなさい、貸した金は100円でも忘れなさい』
 - ・「受けた恩はちょっとのことでも忘れるな、してあげたことは忘れてもいい」ということ。
- ③『親にいろいろしてもらったと思うなら、その分を子どもにしてあげなさい』
 - ・「利他の精神」あらゆる場面で。会社で、先輩が後輩を育てる。
家庭で、親が子どもを育てる。
学校で、先生が子どもを育てる。

教育長 若井 祐平

6年生の理科の授業での話です。担任の先生が標本の石がたくさん入っている大きな木の箱を教壇の前に置きました。「さあ皆さん、前に集まって。今日はまとめの時間です。この箱の中から水晶を見つけてください。」子どもたちは石を手に取り、わいわい話をしながら探していました。やがて箱の底の方から小さなきれいな形の整った透き通った水晶をいくつか見つけました。ある子が「先生、水晶がありました。」と言うと、先生が「他の人はどうですか。」と問いかけました。「ありません。」と子どもたちが答えると、しばらくして先生が「実はその箱の中に入っている石は、全部水晶なんですよ。」と言うと、子どもたちは驚いていました。教科書に載っている写真が水晶であると知識では理解していますが、これが本当に学力と言えるかということです。子どもたちが実物を見て、手にとって初めて各々の水晶を理解し、実物を触るという体験を通して生きた学力が身につくのだと思います。

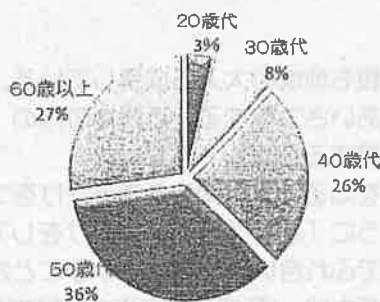
〔アンケートから〕



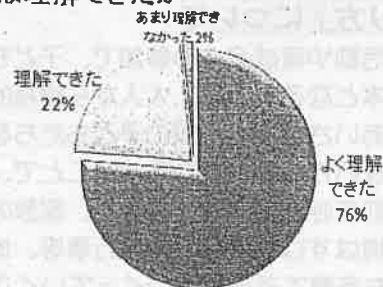
〈感想〉

- ・地域の多くの方が子どものために話し合い、皆さんの熱い思いがとても伝わってきた。
- ・家庭教育の重要性、地域、家庭、学校が協力し子どもを育てていくことの大切さを再認識した。
- ・人が育つにはたくさんの人の力を直接的、間接的に受けていることを実感した。感謝。
- ・自分の思いを伝え、皆さんの考えを聞くことができ、これからの一步を踏み出す力となった。
- ・仕事を理由にせずに、毎日数分でも子どもとの会話を大切にしていきたいと思った。
- ・子どもとの関わりの中でいかせることを多く学べた。自治会や育成会でも子どもの教育について話し合うことが必要であると感じた。
- ・地域行事に参加することはとても大切である。
- ・地域での自分の役割をよく考え、子どもたちのためにできることから実践していきたい。以上

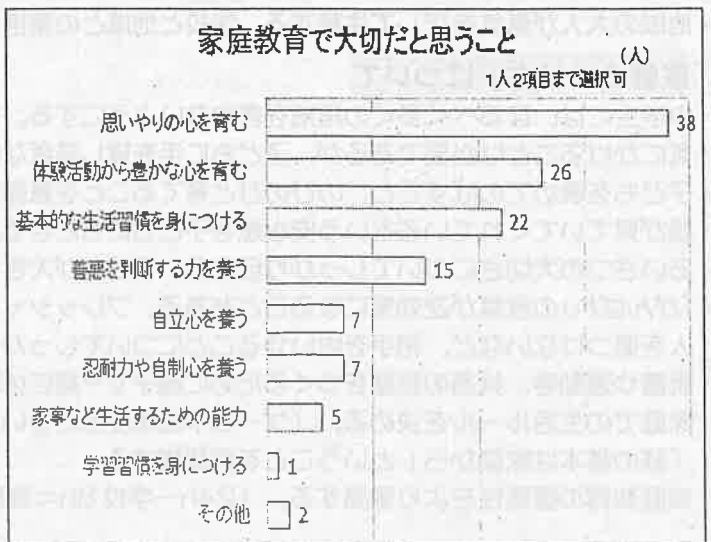
参加者の年代



懇談会の趣旨・話し合いの内容は理解できたか



家庭教育で大切だと思うこと



三重地区「家庭教育懇談会」実施委員会
足利市教育委員会 生涯学習課

「やばっこを みんなで育てる懇談会」実施結果

- 1 実施日時 平成28年9月16日(金) 午後7時～9時
- 2 会場 矢場川公民館
- 3 参加者数 73名(市教育委員会:12名 小中学校職員:9名 地区参加者:52名)
- 4 テーマ 「家庭では 地域では 学校では」～話し合おう 子どもの今と未来のために～
- 5 懇談会からの提案 ○ 大人から子どもに声をかけ、地域で子どもを育てましょう。
○ 学校・地域・家庭のつながりを大切にしましょう。

「子どもの様子」

- ・遊ぶ場所が少ない。家でタブレットや携帯を使用している時間が長い。
- ・朝の旗持ちでは、元気にあいさつをする子どもも多いが、疲れているような子もいる。中学生、高校生でもしっかり挨拶ができる子がいる。
- ・一人でがんばるのは辛いけど、仲間がいればがんばれる。



「家庭・地域・大人の様子」

- ・家庭での学習の時間を決めている。音読をするようにすすめている。
- ・朝のコミュニケーションを心がけている。子どもの様子の変化に応じて声をかけるようにしている。
- ・夕食やお風呂など一緒に過ごす時間をもつように意識している。その日の出来事をたくさん話すようにしている。
- ・あいさつについて、家庭での躰が十分でないところも感じる。
- ・知らない人へのあいさつは、大人に対しても子どもに対しても勇気がいる。
- ・言ってしまったことを後悔するなど、子育てについて日々勉強中である。
- ・仕事のため子どもとの時間がなかなかとれない。短い時間でも子どもの話を聞くようにしている。
- ・「やばっこ」の活動はありがたい。家庭でできないことが体験できたり、上下関係も自然に身についたりする。
- ・地域には、子どものことを熱心に思ってくれている人がいる。地域として取り組めることを考えていきたい。
- ・子育てに不安を感じているが、祖母が孫の面倒を見てくれるので助かっている。共働きなのでありがたい。



「地域のあり方」について

- ・「やばっこ」活動や育成会への参加で、子どもも親も地域の大人も成長している。
- ・子どもの見本となるように、大人から積極的にあいさつをする。近所や町内の子どもとのあいさつで、地域の子どもたちを把握する。
- ・地域の知らない方へあいさつをすることで、人を知る、人と関わるきっかけをつくる。
- ・子どもの名前を呼んで声をかけたり、家族のように「おかえり」の声かけをしていきたい。
- ・矢場川の環境は素晴らしい。地区行事等、地域でふれ合いの機会を増やすことが重要である。
- ・地域で子どもを育てる環境をつくっていくことが大切。(育成会、自治会、民生委員、PTA、ボランティア等の関わり)
- ・地域の大人が勇気をだして注意する。学校と地域との連携を深め、情報を共有していくことが大切。



「家庭のあり方」について

- ・中学生には、なるべく多くの指摘を言わないようにする。子どもの年齢に合わせた関わり方を親が意識する。
- ・気にかけることは必要であるが、子どもに手を貸し過ぎない。できることは自分でやらせる。
- ・子どもを褒めてのばすこと、のびのびと育てることを意識する。叱るときはメリハリをつける。
- ・親が見ていてくれるという安心感を子どもにもたせる。忙しい中でも、子どもの話をしっかりと聞く。
- ・あいさつの大切さについてしっかりと伝える。子どもが大きくなって、あいさつが継続できるようにする。
- ・「がんばれ」の言葉が逆効果になることもある。プレッシャーをかけすぎない。
- ・人を傷つけないなど、相手を思いやることについてしっかりと伝える。
- ・読書や運動等、共通の話題をつくるために親子で一緒に体験する。
- ・家庭での生活ルールを決める。(ゲームや携帯使用について確認が必要)
- ・「躰の基本は家庭から」ということを再認識する。
- ・家庭教育の重要性をより意識する。(24h-学校8h=家庭16h)



【全体会】

〈話題提供〉「原点となった親からの語りかけ」

足利市長 和泉 聡

私には、親からの影響を受けた語りかけが三つあります。

- ①『世界を股に掛けて動き回るような仕事につけたらカッコいいよね』
 - ・「カッコよさ」→見かけではなく、生き様。
 - ・「見える学力」(偏差値等)の土台に「見えない学力」がたくさんあり、家庭で築かれるものが多い。生活習慣や親からの語りかけの重要性。
- ②『借りたお金は1円でも覚えておきなさい、貸した金は100円でも忘れなさい』
 - ・「受けた恩はちょっとしたことでも忘れるな、してあげたことは忘れてもいい」ということ。
- ③『親にいろいろしてもらったと思うなら、その分を子どもにしてあげなさい』
 - ・「利他の精神」あらゆる場面で。会社で、先輩が後輩を育てる。
家庭で、親が子どもを育てる。
学校で、先生が子どもを育てる。

教育長 若井 祐平

「お母ちゃんはうるさい」という小学生が書いた詩を紹介します。

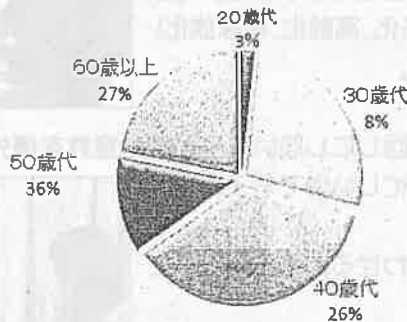
ぼくが学校に行くまで、お母ちゃんの言うことは決まっている。僕が服を着ていたら、「はよう顔を洗いや」と言う。顔を洗い終わったら、「はようご飯を食べろ」と言う。出かけようとしたら、「時間割ちゃんと合わしたか」「はんかち持ったな」「はながみ入れたな」「宿題忘れてないな」「はよう行きや、遅れるで」。ぼくが次にしようとするを必ず言う。毎朝同じことを忘れんと言おうなあ。という詩です。

ほのほのとした親子の家族愛を感じます。でも、これを毎日繰り返していたらどうなるのでしょうか。言われないと自分から動こうとしない子になってしまう可能性もあります。かと言って、何も言わないのもちょっと心配です。やはり、ほどほどが一番だなと思います。

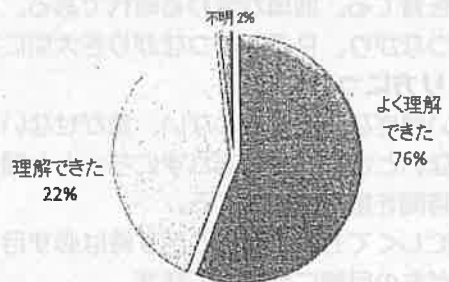
【アンケートから】



参加者の年代



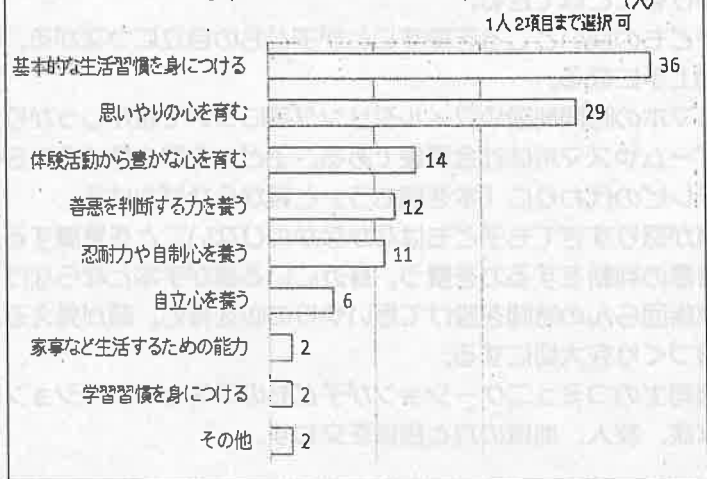
懇談会の趣旨・話し合いの内容は理解できたか



〈感想〉

- ・親として、子どもにしてあげなくてはいけないことに気づくことができた。
- ・多くの方と顔見知りなることで、地域に出いくことが親子共に楽しくなると思った。
- ・「やばっこ」活動がさらに充実するように協力していきたい。
- ・子育てについていろいろな立場の方の話を聞き、協議することは素晴らしいと感じた。
- ・保護者の方、地域の方からたくさんの子育ての話を聞くことができて有意義であった。
- ・話をしているうちにお互いに気持ちが高まり、団結心のようなものができてとてもよかった。
- ・いろいろな視点で話し合いができてよかった。
- ・今後も地域の役割を考え、何かできることを考えていきたいと思った。
- ・定期的に懇談会が開催できるとよい。 以上

家庭教育で大切だと思うこと



矢場川地区「家庭教育懇談会」実施委員会
足利市教育委員会 生涯学習課

「葉鹿の子を みんなで育てる懇談会」実施結果

- 1 実施日時 平成28年10月13日(木) 午後7時～9時
- 2 会場 葉鹿公民館
- 3 参加者数 87名(市教育委員会:10名 小中学校職員:10名 地区参加者:67名)
- 4 テーマ 「今 子どもについて悩んでいること」
- 5 懇談会からの提案 ○ 家庭でのルールを確認しましょう。
○ 地域・家庭・学校のつながりを大切にしましょう。

〈子どものことで悩んでいること〉

- ・携帯のルールが家庭にあるが守れなくなっている。モラルについて家庭で教えていかななくてはいけない。
- ・ゲーム時間の約束が守れない。視力が落ちてきている。読書の時間が減ってしまっている。
- ・スマホが止められないので、Wi-Fiを切ることも考えている。
- ・兄妹の性格が違うので、親としての接し方が難しい。
- ・子どもを問いただし過ぎてしまい、親のいらいらが伝わってしまう。
- ・中学生になると部活動で不在のことが多く、コミュニケーションが不足になりがちである。
- ・勉強したのに結果がよくなかったときの声かけなど、思春期の子への対応を考えてしまう。
- ・孫をみているが、動画を見ることが止められない。屋間の遊び場で他の子との出会いが少なく、子ども同士で遊ぶ機会がない。孫を預かるのは楽しいが責任重大である。叱るのが難しい(孫フィルター)。
- ・3人の子育てをしながら仕事や家事をこなしているため多忙であり、今後の家庭のしつけや育児が不安である。



【地域のあり方について】

- ・葉鹿は地区行事、学校行事が盛んである。地域活動を継続し、子どもたちとのふれあいを大切にしていく。
- ・地域行事への親子での参加がコミュニケーションにつながる。
- ・地域の大人がどの子どもに対しても声をかけたり注意をしたりする。地域で子どもを育てる。地域が変わる時代である。(少子化、高齢化、核家族化)
- ・親同士のつながり、PTAのつながりを大切にする。



【家庭のあり方について】

- ・大人が言い過ぎない、代弁しない、急がせない、後回しにしない。子どもの意見を優先する。
- ・手が離せないときは、後で忘れずにちゃんと聞く。忙しい中でも子どもと向き合う時間を意図的につくる。
- ・どんなに忙しくても、子どもと話す時は必ず目を合わせる。座るなどして大人が子どもの目線に合わせて話す。
- ・「ほめる」「勇気づける」ことで自信を持たせる。失敗したときでも勇気づけることはできる。
- ・子どもの良いところを探すことが子どもの自立につながる。叱り上手、ほめ上手になる。
- ・スマホの時間制限やフィルタリング等について親がしっかりと子どもに伝え、約束を守れるようにする。
- ・ゲームやスマホは社会現象である。子どもを取り巻くSNSの利便性や危険性を親がもっと理解する。
- ・テレビの代わりに「本を読もう」と親からなげかける。
- ・親が怒りすぎても子どもはなかなかのびないことを意識する。
- ・善悪の判断をする力を養う。身近にいる親が手本とならなければならない。
- ・家族団らんの時間を設けて思いやりの心を育む。顔が見えるような家庭環境づくりを大切にする。
- ・親同士のコミュニケーションが子どものコミュニケーションにもつながる。家族、友人、地域の方と挨拶を交わす。



【全体会】

〈話題提供〉「原点となった親からの語りかけ」

足利市長 和泉 聡

私には、親からの影響を受けた語りかけが三つあります。

- ①『世界を股に掛けて動き回るような仕事につけたらカッコいいよね』
 - ・「カッコよさ」→見かけではなく、生き様。
 - ・「見える学力」(偏差値等)の土台に「見えない学力」がたくさんあり、家庭で築かれるものが多い。生活習慣や親からの語りかけの重要性。
- ②『借りたお金は1円でも覚えておきなさい、貸した金は100円でも忘れなさい』
 - ・「受けた恩はちょっとのことでも忘れるな、してあげたことは忘れてもいい」ということ。
- ③『親にいろいろしてもらったと思うなら、その分を子どもにしてあげなさい』
 - ・「利他の精神」あらゆる場面で。会社で、先輩が後輩を育てる。
家庭で、親が子どもを育てる。
学校で、先生が子どもを育てる。

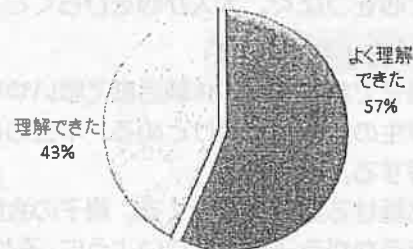
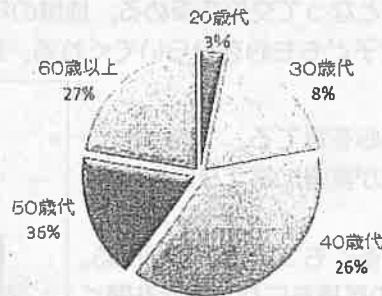
教育長 若井 祐平

お子さん、お孫さんは、家でどのくらいの時間テレビを見ていますか。足利市には「教育目標」があります。その中に「有効な時間の使い方」についての目標があります。2年前に調査を行い、小学校6年生と中学校3年生の500名に答えてもらいました。「あなたは、家でどのくらいテレビを見ていますか」の問いに、一番多かったのが「2時間以上」で、40%の子どもたちが答えています。どうしても見たいものがあるわけではなく、ついだらだらとテレビを見てしまうのではないかと思います。ある家庭で、一週間テレビを見ない生活をしたそうです。お母さんは、テレビがないと何となく寂しくなり、会話がなくなるのではないかと最初は心配したそうです。ところがやってみると、親子の会話がずいぶん増え、子どもが幼稚園で習ってきた遊戯やダンスを家族の前で発表したり、親子でオセロをしたり、夫婦の会話もとてもはずんだそうです。みなさんも一日だけでも 試しに ちょっとテレビを止めてみてはいかがでしょうか。

【アンケートから】

参加者の年代

懇談会の趣旨・話し合いの内容は理解できたか



〈感想〉

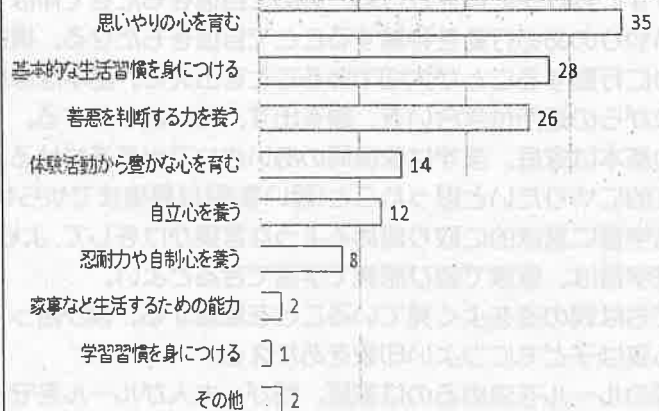
- ・ 普段感じていることを聞くことができ、よい機会であった。様々な年代、立場の方のお話を聞くことができ、とても有意義であった。
- ・ 地域の皆さんとの情報交換の大切さを再認識した。
- ・ 子どもと一緒に参加してもおもしろいと思った。
- ・ 和やか雰囲気でのいい時間を過ごすことができた。
- ・ 市長の講話は興味深く教えられることが多くあった。話に合ったことを実践してみたいと思った。
- ・ 子育てをすることで親も成長すると感じた。
- ・ 年齢を問わず子育てで悩んでいることは、皆さん一緒なんだなと思った。
- ・ 話し合ったことを今後に役立てたいと感じた。
- ・ 自分の子育ては終わってしまったが、若いお父さんお母さんの意見を聞いて、少しでも何か役立つ事ができたらいいかと思った。

以上

家庭教育で大切だと思うこと

(人)

1人2項目まで選択可



葉鹿地区「家庭教育懇談会」実施委員会
足利市教育委員会 生涯学習課

「けのっ子を みんなで育てる懇談会」実施結果

- 1 実施日時 平成28年10月27日(木) 午後7時～9時
- 2 会場 毛野公民館
- 3 参加者数 70名(市教育委員会:9名 小中学校職員:10名 地区参加者:51名)
- 4 テーマ 「みんなで育てる思いやりの」
- 5 懇談会からの提案 ○ 地域・家庭・学校がつながり、みんなで「思いやりの心」を育てましょう。

「子どもの様子」

- ・小中学生は地域のなかで挨拶ができる子が多い。
- ・一人にいる子は挨拶ができるが、複数でいると話に夢中であまりしない。でも、仲良く帰っている光景が見られるのはいいことである。
- ・毛野地区の中での絆(仲間意識)がよい。子ども同士の関わりに温かさを感じる。子どもは家の顔と学校の顔がある。
- ・中高生の朝の挨拶がもう少し増えるとよい。自転車の乗り方等の交通ルールの意識がより高まるとよい。
- ・外で遊ぶ機会が少なくインドアの傾向にある。



「地域のあり方」について

- ・挨拶し合える環境が大切。近所の大人や子どもの顔をよく覚える。
- ・下校時刻に合わせた散歩は効果的。大人が団結して子どもたちを見守っていく意識をもつ。
- ・家庭、地域、学校が一つになって子どもを育てる。良いことの情報交換を積極的に行う。
- ・地域の自然の中での体験活動の場は、学校だけでなく地域の力が大切である。毛野地区は上手くいっている。
- ・中学生ボランティアの活躍の場をつくっていく。
- ・人との関わりが大切。子どもが多くの人と関わる機会を持つことで感謝の心を育てる。
- ・夏祭りや育成会行事等を盛り上げていくことで地域の子どもの様子を把握する。
- ・世代間交流を。自治会、育成会、老人会等が一体となって交流を深める。地域の年配パワーが必要である。
- ・あいさつで心をつなぐ。大人が心をひらくことで子どもも心をひらいてくれる。地域からの積極的な声かけを。



「家庭のあり方」について

- ・地域行事に親子で参加する。体験活動で思いやりの心を育てる。
- ・反抗期の中学生の気持ちを受けとめる。本当のことが素直に言えない年代あることを理解する。
- ・家庭で何でも話せる雰囲気をつくる。親子の会話を多くもつように心がける。
- ・大人の顔色をうかがう子にならないように、子どもの気持ちになって話を聞く。
- ・ときには親が子どもに相談するなど心をひらくことで、コミュニケーションが深まる。子どもを信頼する。
- ・めげずに我が子に声をかける。褒めて自信をもたせて伸ばしていく。
- ・思いやりのある行動を称賛することで自信をもたせる。損得ではなく、人のために行動することが大切であることを伝える。基本は家庭のあたたかさ。
- ・昔ながらの近所付き合いを。顔を出す、あいさつをする。
- ・躰の基本は家庭。まずは家族間のあいさつで心を通わせる。
- ・自主的にやりたいと思ったこと(習い事等)は最後までやらせる。
- ・家庭学習に意欲的に取り組めるような言葉かけをして、よりそうように励ます。
- ・家庭学習は、家族で遊び感覚で学習できるとよい。
- ・子どもは親の姿をよく見ていることを意識する。親が困っている人に接している姿は子どもにつよい印象をあたえる。
- ・携帯のルールを決めるのは家庭。親が、大人がルールを守り模範となる。



【全体会】

〈話題提供〉「原点となった親からの語りかけ」

足利市長 和泉 聡

私には、親からの影響を受けた語りかけが三つあります。

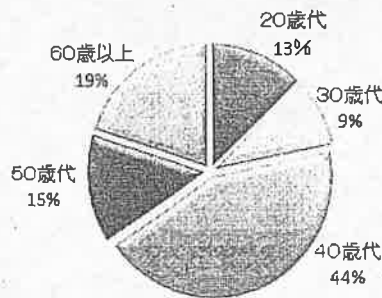
- ①『世界を股に掛けて動き回るような仕事につけたらカッコいいよね』
 - ・「カッコよさ」→見かけではなく、生き様。
 - ・「見える学力」(偏差値等)の土台に「見えない学力」がたくさんあり、家庭で築かれるものが多い。生活習慣や親からの語りかけの重要性。
- ②『借りたお金は1円でも覚えておきなさい、貸した金は100円でも忘れなさい』
 - ・「受けた恩はちょっとしたことでも忘れるな、してあげたことは忘れてもいい」ということ。
- ③『親にいろいろしてもらったと思うなら、その分を子どもにしてあげなさい』
 - ・「利他の精神」あらゆる場面で。会社で、先輩が後輩を育てる。
家庭で、親が子どもを育てる。
学校で、先生が子どもを育てる。

教育長 若井 祐平

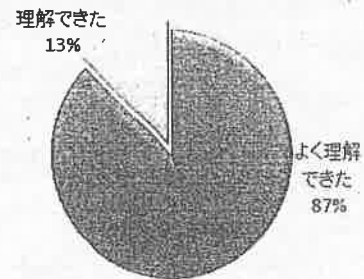
私は中学校で校長をしていたときに、3年生の生徒達と修学旅行で京都・奈良を巡りました。奈良の興福寺の掲示板に「私たちは心の時代と言いつつ、一方ではひたすら利便性や効率を求め、手間暇を省こうとしている」と書いてありました。確かに自分の子どもころの社会と比べてみますと、リモコン一つで冷暖房が管理できたり、地図がなくても車で目的地に行けたり、あるいは家にいながら世界中の情報を手に入れたり、お店に行かなくても買い物までできたり。そんな時代ではありますが、子育ては「手間暇をかける、ゆっくりとあたたかく育てていく」ということが大切であり、いつの時代でも変わってはいけないものだと思います。

【アンケートから】

参加者の年代



懇談会の趣旨・話し合いの内容は理解できたか



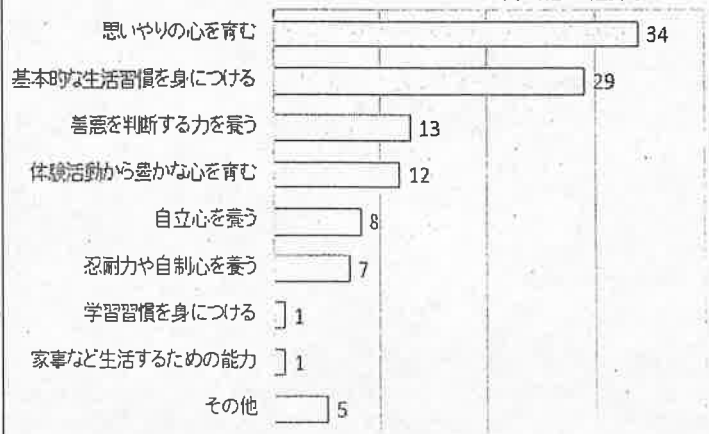
〈感想〉

- ・地域の児童の様子を知ることができて参考になった。様々な年代や立場の方と話をすることができてとても勉強になった。
- ・普段なかなか関われない方々と家庭教育についての話ができてとてもよかった。
- ・地域の力は大きくありがたい。自分もその一員として地域の子どもたちを大切に、挨拶などできることからやっていきたいと思った。
- ・地域の方、学校の先生方、保護者の方がそれぞれ信頼し合って子どもを育てたいと思った。皆が一生懸命に子育てに向き合っていると感じた。
- ・意見や情報交換は親同士の交流になりよい機会となった。地域との交流を大切にしていきたい。
- ・まさに、地域間、世代間交流の場になった。少しずつでも交流の場が広がっていければいい。
- ・自分の意識が変わり、自分の子ども、地域の子どもたちともしっかり交流を深めたいと思った。思いやりの心をもって接していきたい。

家庭教育で大切だと思うこと

(人)

1人2項目まで選択可



毛野地区「家庭教育懇談会」実施委員会
足利市教育委員会 生涯学習課

家庭教育通信

平成28年度
足利市教育委員会
生涯学習課
毎年1回発行



子どもたちの未来のために

家庭は、子どもの生活の大切なよりどころであり、すべての教育の出発点です。

子どもが、基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、自尊心や自立心、社会的なマナーなどを身につけていく上で重要な役割を果たしています。

自尊感情を育みましょう

「自分のことが好き」「自分は大切な存在」「自分って素敵な人」などのように、ひとりしかいない自分をかけがえのない存在と認め、長所も短所も含めて自分を大切にできる気持ちを「自尊感情」といいます。

自尊感情は、親から認められている、大切にされている、愛されていると感じることによって育まれ、自分らしく生きていくことを支える大切な感情です。自尊感情の高い子どもは、物事に積極的に取り組み、何事にも挑戦し、困難に出会っても立ち向かい、最後までがんばることができるといわれ、子育て(家庭教育)のなかでも重要なことです。

足利の子をみんなで育てる懇談会

〔家庭教育懇談会 結果から〕

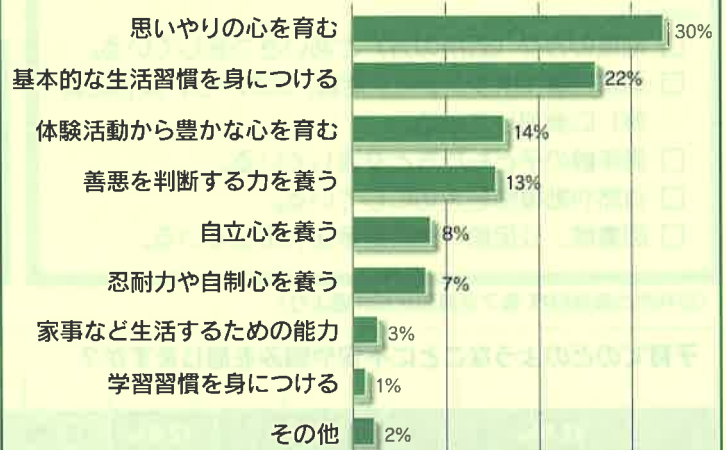
家庭や地域で、子どもたちのために何ができるかを話し合う「足利の子をみんなで育てる懇談会」が、筑波、三重、矢場川、葉鹿、毛野の5地区で開催され、多くの貴重な提案がいただきました。

ぜひ、家庭や地域での取り組みの輪を広げてください。

- ◆ 躰(しつけ)の基本は家庭であることを意識しましょう。
- ◆ 子どもの話に耳を傾け、子どもの気持ちに寄り添いましょう。
- ◆ 家庭でのコミュニケーションを大切にして、子どもの変化に気づきましょう。
- ◆ 何でも話せるような家庭の雰囲気をつくりましょう。
- ◆ メールではなく、直接会って話すことの大切さを伝えましょう。
- ◆ 子どもの行いを認め励ますことで「自主性」を育てましょう。
- ◆ 子どもに家庭の仕事や役割を分担し、家族の一員としての自覚をもたせましょう。
- ◆ 子どもの生活リズムを意識し、家庭学習の習慣を身につけさせましょう。
- ◆ 子どもが自信をもてるような言葉をかけましょう。
- ◆ 身近なところに本を置いて、家族で読書を楽しみましょう。
- ◆ 家庭学習に自主的に取り組めるように学習環境をととのえましょう。
- ◆ 叱ったり注意したりするのは大人の責任であることを意識しましょう。
- ◆ 地域の子どもにあいさつや声かけをして、積極的に関わりましょう。
- ◆ 地域の行事に参加して、絆を深めていきましょう。
- ◆ ルールやマナーなど、大人が手本を示しましょう。
- ◆ 地域、家庭、学校が連携をしていきましょう。

家庭教育で大切だと思うこと

1人2項目選択



身につけ させたい

基本的な生活習慣と規範意識

子どもが自ら考え、正しい判断ができるように礼儀や思いやりの心、善悪の判断などを身につけさせましょう。そのためには、親(保護者)が自らお手本を示すことが大切です。体験活動を通して、社会のルールやマナーを知り、「命を大切にする心」「自然を大切にすること」「感謝の気持ち」などが培われます。

生活のリズム 礼儀 思いやり ルールを守る

- 生活のリズムが身につくよう親子で話をしている。
- 身だしなみについて話をしている。
- 家族みんなであいさつをしている。
- 気になった言葉遣いや やってはいけない行動は、その場で正している。
- 祖父母やお年寄りを大切にしている親の姿をみせている。
- “いじめや差別・偏見は許されない”ことを教えている。
- “自分の子どもだけ良ければ”という考えをもっていない。
- 日ごろから思いやりについて話をしている。
- 家庭での生活のルール(テレビの時間、携帯端末の使い方、帰宅時刻)を決めている。
- ルール(法律、交通ルールなど)の大切さについて話をしている。

〈お父さん〉

- 地域の方々(近所の方)とあいさつをしている。
- 地域行事(ボランティア活動、スポーツ、文化活動等)に参加している。
- 異年齢の子どもたちと交流している。
- 自然や動植物を大切にしている。
- 図書館、公民館、美術館等を利用している。

(足利市の教育目標 第7次具現状況評価より)

子育てのどのようなことに不安や悩みを感じますか？



子育てには、様々な悩みや不安があるようですが、一人で抱え込まないようにしましょう。

家庭、地域ぐるみで協力して子どもとかわり、育てていくことが大切です。

子育て四訓

乳児はしっかり 肌を離すな
 幼児は肌を離せ 手を離すな
 少年は手を離せ 眼を離すな
 青年は眼を離せ 心を離すな

子どもには発達段階によって様々な特徴があります。子どもの心とからだについて「知る」ことで、子育てにおける不安が解消されたり、関わり方や言葉のかけ方についてヒントを得たりすることができます。

深めたい

親子のコミュニケーション

子どもにとって、家庭は“ほっ”とできる心のよりどころです。子どもとのコミュニケーションを大切にし、子どもの心を受けとめるようにこころがけましょう。

聴く

優しい言葉(プラスの言葉)

- 子どもと、学校での出来事について話をしている。
- 子どもの友だちの名前を知っている。
- 家族団らんの場所や時間をつくっている。
- 子どもの話を 顔を見ながら最後まで聴いている。
- 子どもの努力している姿を応援している。
- 子どもが自分自身のよいところを知っている。
- 子どもが親の仕事を知っている。
- 子どもの興味や将来の夢を知っている。
- 家族の一員としての仕事(手伝い)を与えている。
- 親の仕事のよさや大変さ、仕事を選んだときのエピソードについて、子どもに話したことがある。

取り組ま せたい

自主的な家庭学習・読書

学んだことを確実に定着させるためには、計画的に家庭学習に取り組むことが大切です。また、家庭での読書「家読(うちどく)」を奨励しましょう。

継続

学習の話題を家庭で 家読(うちどく)

- 子どもの得意な教科を知っている。
- 時刻を決めて学習するよう話している。
- 学習に関心が高まるようなアドバイスをしている。
- 新聞やテレビのニュースなどを話題にしている。
- 家族みんなが読書をする習慣がある。

学校・家庭教育相談室

電話 (0284)42-8884

こまった時には一人で悩まず、お気軽にご相談ください。

〔教育相談〕

- 不登校やいじめ、学習障がい傾向など、様々な課題に対する児童、保護者を対象とした相談
- 育児、しつけ、家庭生活、学校生活、子供の非行など子育ての悩みに対する保護者等を対象とした相談
- 友達や学校に関することなど青少年を対象とした相談

【相談日】月曜日～金曜日(祝休日、年末年始を除く)

【時間】午前9時～午後5時

〔適応指導〕

- 不登校傾向などの児童生徒への学習支援や体験活動等の実施
- 【活動日】月曜日～金曜日(祝休日、年末年始を除く)
 【時間】午前9時～午後4時

論 説

2016.12.23

ノースマホデー

正しい使用、子と考えよう

と宛第

宇都宮市教委は10月、市内の小中学生を対象に初めて「ノースマホデー」を実施した。スマートフォンや携帯電話を「使用しなかった」とした小学生は73・8%、中学生は40・6%だった。

この数字をどう見るかだが、スマホなどの使い方を「親子で考える日」という趣旨が十分伝わったとは言いがたい。保護者自身がメッセージをしっかり受け止め、子どもと向き合うことがスマホなどを巡るいじめや依存などの問題を防止する上で重要だ。

同市教委などは昨年2月、全家庭が共通して取り組むルールとして「スマホ・ケータイ

イ宮っ子共同宣言」を策定した。子どもたちをさまざまなトラブルから守るのが狙いで「1日1時間まで」「夜間の友達との使用は9時まで」など四つの約束を盛り込んだ。

併せて昨年からは、約束を徹底する週間を設け、さらに今年は期間中の1日を「ノースマホデー」に指定。家庭内で携帯電話やスマホを使用しない生活(緊急時や習い事の送迎連絡などを除く)を送り、親子で日頃の使い方を振り返る口とした。

市教委によると、「子どもに任せきりにしていたが、使い方を直すきっかけになった」「今後も続けてほしい」といった声が保護者からあつたという。一定の成果があっ

たといえるが、所持者のうち徹底週間に親子で使い方に ついて話をしたのは小学生42・5%、中学生38・8%にとどまった。

適切な判断力が十分身に付いていない子どもたちが安易にスマホなどを手にすれば、

個人情報流出やいじめ、依存症などにつながる危険性もある。親自身が正しい使い方や学び、しっかり教えることがわが子の安全を守る上で重要である。

同市教委は最近、ルールを守れない大人、モラルのない大人に対する子どもたちの疑問などを集めた啓発小冊子「コドモのメセン」を作製した。その中には「スイミング

個人情報流出やいじめ、依存症などにつながる危険性もある。親自身が正しい使い方や学び、しっかり教えることがわが子の安全を守る上で重要である。

教室中、ガラス越しの観覧席を見るとスマホを見てるお母さんばかり。ねえ、こっちも見てよー」という耳が痛いエピソードも載っている。

まさにスマホなどに向き合う大人の姿勢が問われており、その見直しなくして子どもたちの改善はあり得ない。親たちの気づきを促す上で社会教育の役割は大きく、さらなる啓発活動にも期待したい。



宇都宮市教委が作った「コドモのメセン」。目立つ色合いとイラストで大人にモラル向上を促す

地域と学校つなぐボランティア

●高知県香南市立赤岡小の取り組み

高知県香南市立赤岡小学校は、ボランティア

「黒潮の子ども応援隊」と協力し、地域ぐるみで子どもを育てる活動を進めている。学習支援や食育、防災をはじめ、取り組みは多岐にわたる。活動により、子どもの生活態度改善や学力向上に効果が出ている。

活動のきっかけは、地域住民と子どもの関係が希薄化しているという危機感だった。2010年度、赴任したばかりの岡西博文校長（62）が校区の中学校教員や地域住民らとの宴席に参加した際、中学校の生徒の素行の悪さが話題になった。岡西校長が「昔のように子どもを地域で叱ってほしい」と呼び掛けたところ、地元に住む年配の男性に「子どもが怖い」と返された。岡西校長は、中学に進学する前の小学生のうちから、近所の人とのつながりが必要だと感じた。

そこで岡西校長は、夏休みに「家庭訪問」を実施。訪問先は、1981〜91年度に赤岡小学校に赴任していた時に知り合った、当時の保護者ら約20軒だ。それまでも学習支援や昔ながらの遊びの伝授などをするボランティアが30〜40人ほどいたが、休み明けには新たに五十数人のボランティア

が加わった。

学習・生活面で目に見える成果

2012年度には、文部科学省の学校支援地域本部事業として、ボランティアを「黒潮の子ども応援隊」に組織化した。会則はなく、ボランティアが好きなときに活動すればよいという、参加しやすい体制をとった。それまでは「学習支援」「交通安全」といったボランティアがそれぞれ別々に活動していたが、異なる活動をするボランティア同士の間を強化した。月に1回、「環境整備隊（畑の手入れや学校備品の修繕など）」「学習支援隊」「スポーツ健康隊（食育など）」「黒潮の子ども安全隊（防災や交通指導など）」の各代表者を集めて幹事会を開催。年に1回、ボランティア同士で昼食を取る交流会も始めた。異なる活動をするボランティアとの情報共有により、参加者が活動全体における自らの役割を理解し、取り組みの大切さを実感しやすくなったという。ボランティア数は、2016年10月時点で231人に上る。

ボランティアは、家庭環境や経済状況が厳しい子どもたちも支える。例えば、家で朝食を食べさせ



てもらえない児童がいる。赤岡小は15年12月に朝食作りを実施。ボランティアは午前6時半、児童は午前7時半に登校し、5〜6年生とボランティアが調理、3〜4年生が配膳を担って、1〜2年生は食の大切さを学んだ後、食事を取る。今年9月からは、5〜6年生に自宅で料理の練習するよう指導し、子どもの自立を目指している。

地域との取り組みを強化してから、児童の学力が上がった。ボランティアが算数の丸付けを担うため、教員は児童の指導に時間が割けるようになった。岡西校長は「全国学力・学習状況調査で、7年前の赤岡小の児童の成績は全国平均を下回る厳しい状況だったが、右肩上がりで見ると、現在は全国平均を上回った」と目を細める。アンケートで「算数の勉強は好き」と答えた児童は15年度に86・5%と、4年前より12・7%増えた。

子どもたちの態度も変わった。授業に見学者が来ると、以前は勉強している姿を見られたくないため児童は落ち着きをなくしていたが、現在は授業に集中できるようになった。「人とのつながりができ、自信が付いたからだ」と岡西校長は強調する。近所の人と児童が会話を交わすようになった。かつては生徒が喫煙するなどしていた校区の中学校では問題行動が収まり、多くの生徒が安全のためにヘルメットをかぶって自転車通学するまでになったという。「ヘルメットをかぶってはいないと、地域の人に怒られるから」と岡西校長は指摘する。地域で子どもを叱り、育てる環境は、着実に整ってきている。

（木田 茜川高知支局）

